

地域訪問で9条対話を6年間!

対話の中で
変わっていく面白さも!

前号で一部報道のように、**札苗九条の会**は2006年8月から毎月「9の日」に9条署名を持って、小学校2校区4千戸を対象にした地域訪問を続けてきました。目的は「憲法九条の改悪に反対し守る」ことを求める署名をし



てもらうことと、内容を理解してもらおう啓蒙活動。実施後は賛同者署名名簿に整理し、同時に、地域地図に戸別の色塗りを

して、同じ人、同じ家をダブらぬよう署名用紙、色塗り地図、九条の会リーフレットを携帯し訪問を続けてきました。この6年間で休んだのは2回のみ、6月で署名集約数が1949筆となったのを機会に、事務局のみなさんに来てまでの活動を振り返ってもらいました。

「九条の会」と言っても、ドアも開けてくれず、対話にならない所も多い、「個人情報から署名に慎重な人、諦めから署名を拒絶する人もいるが、いざという時には国民投票で反対の意思表示を、と依頼してきている」、「戦争体験世代や子育て中の若いお母さん、若者は反応が良い」、「北朝鮮や中国のことを問題にして9条を変えた方が良い、

わたしと憲法・9条 No37

平和な社会を子ども達に



モエレはとポツポ保育園園長 石井 繁子

今から40数年前、初めて乳児保育所開所に当たり試行錯誤で運営してきましたが、その中で“どんな子どもに育ててほしいか”子ども像を熱く語り合いました。語っていく中で私たち大人は何をなすべきか・・・どんなに、発達を願って豊かな保育展開を実践しても究極的には平和な社会があってこそ健全な子どもが育っていくのではないかと。保育と平和な社会は切り離せない、それは、はとポツポの原点でした。

伊勢崎堅治氏の講演で「平和はつくれるか、平和構築の課題」を聞いて、平和は語れるが平和を構築するのは難しいと国際NGOの仕事を通してアフリカのシャナリ、ルワンダの内戦と終結の実話を語っていた。紛争の始まり“それはどこから始まるのか”をいま研究、検証しているそうです。平和の反対は戦争、正義をかざして殺し合うのが戦争であり、人類の歴史は大小様々な戦争の繰り返しによって今日に至っているのではないかと。

こう考えるといろいろ諸問題を山積しているが、67年間戦争をしていない日本、それは安全保障の源泉となっている日本国憲法第9条が大きな砦となっていることを今一度確認し広めていきたい今日である。

丘珠高校前宣伝 シール投票好評!

19日に行われた宣伝には元町北・東区・栄東9条の会と新婦人から5名の参加でした。



自転車を止めて署名してくれたり、短時間で、核兵器廃絶11筆、原発ノー15筆、消費税4筆でした。また原発に対するシール投票も好評で反対13(今すぐ廃止8、将来的に廃止5)、わからない3、賛成・現状維持2、増やすは0でした。



お詫び
短縮授業で下校が30分早まりピーク時に行けませんでした。

次回は
7月10日(火)
3:15~
北斗高校

次の世代に平和のバトンを!の思いを大切に、大勢で取り組みましょう。

九条の会ネットワーク 北海道が結成される

道内の草の根の会との
情報交換・連携を目指し

事務局を中心にしたみなさんの「九条にかける真摯な思い」と団結力、粘り強さがひしひしと伝わってきます。

5月26日、略称「九条ネット北海道」の設立総会が開かれ、主に道央圏からオブザーバーを含め50団体80名が参加しました。最初に3人の共同代表のあいさつ、事務局から経過報告と申し合わせ事項などの提案がありました。

当会は申し合わせのひとつである、「講演会等の実行委員会に援助しま



報告する東区9条の会・川添事務局長(左)と栄東9条の会・中山会長(右)

す」の表現は、「九条の会」が唱えるネットワークの精神からは「協力します」の方が良いのではと、逆提案了承されました。また「参加する」の表現への意見などもいくつか出され、労組など従来の組織とは異なる運動に相応しい表現に更に練ること、道内全域に広げる取り組みにしていこうことなどを含め、発足を確認し合いました。

つづいて佐藤博文弁護士(札幌)の講演「最新の憲法情勢をどう見るか」の後、短時間で当会と栄東を含む10の会が活動報告を行いました。置かれた条件に合ったテーマとやり方が工夫されており、詳しく聞きたいものばかりでした。